令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【沼影小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)各教科で育成を目指す知識・技能の活用を図るとともに、課題を発見する力、思考・判断・表現する力、他者と協働しながら学びを深めることができる資質・能力を育成 (2)児童が「何を」「どのように」学ぶかを自ら判断し、学習を改善していく主体的な学習者としての資質・能力を育成
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)各教科において学びの連続性を生かし、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を核とした真の学力へつながる授業の実施。(通年) (2)課題を自ら設定し、資料の収集や調査、話合い活動を通して思考を深める学習、対話を通して考えを広げたり深めたりする協働的な学習を計画的に行う時間を設定する。

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	全体的に学習内容の定着が見られ、基礎的な学習内容の定着に課題のある児童においても県や全国の平均を上回る状況であった。さらに、児童一人ひとりの成績のばらつきが比較的小さく、学級や学年全体で着実に学力が身に付いていることがうかがえる。これらの結果から、本校では基礎・基本の定着を大切にした学習指導の成果が表れていると考える。
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	高得点層が厚いことから、学習内容を単に覚えるだけではなく、概念的に理解し、活用できている児童が多いと考えられる。思考力を必要とする課題にも前向きに取り組もうとする学習姿勢が育っていることがうかがえる。

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	学力、指導力向上のために校内研修において理論を学び、日々実践しているため全教職員が、個別最適・協働的な学びを意識し、授業に臨んでいる。短時間の習熟や振り返りの時間を確保し、既習事項の定着は図れているが、ICTを活用した反復練習にはまだ課題がある。
	B	
⇓		
学力向上策の見直し	変更なし	

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上(達成)　B 6割以上(おおむね達成)　C 6割未満(あと一歩)